

全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- (1) 小学校 第6学年 原則として全児童
- (2) 中学校 第3学年 原則として全生徒

3 調査事項

- (1) 教科に関する調査
 - ア 小学校調査は、国語、算数の2教科
 - イ 中学校調査は、国語、数学、英語の3教科
 - ウ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- (2) 質問紙調査
 - ア 学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する児童生徒に対する質問紙調査
 - イ 学校に対する質問紙調査

4 調査方式 悉皆調査

5 調査実施日 令和5年4月18日（火曜日）

6 調査を実施した学校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施学校数	児童数	実施学校数	生徒数
宇治市	22校	1,467人	10校	1,376人
全国（公立）	18,672校	964,350人	9,408校	893,528人

※ 宇治市の児童生徒数は、4月18日の実施調査で回収された回答用紙が最も多かった教科の回答用紙の枚数で算出しています。

7 第2次宇治市教育振興基本計画に基づく現状値と目標値

第2次宇治市教育振興基本計画では、全国学力・学習状況調査の「受験者数」を25%ずつに区分し、その区分の境にある正答数を規準として上位からA層、B層、C層、D層に分け、それぞれの割合を算出し、現状値及び目標値を設定しております。

※現状値は、各年の宇治市のC層・D層の割合、目標値は、各年の全国のC層・D層の割合としています。

(1) 調査結果（小学校6年）

〔表1〕教科に関する現状値と目標値

科目	区分	D層の割合	C層の割合
国語	令和5年度現状値	26.6%	22.7%
	令和5年度目標値	24.0%以下	20.8%以下
算数	令和5年度現状値	17.7%	33.0%
	令和5年度目標値	19.5%以下	30.5%以下

(2) 調査結果（中学校3年）

〔表2〕令和5年度 教科に関する現状値と目標値

科目	区分	D層の割合	C層の割合
国語	令和5年度現状値	20.7%	24.9%
	令和5年度目標値	19.4%以下	23.0%以下
数学	令和5年度現状値	18.0%	33.8%
	令和5年度目標値	17.6%以下	31.1%以下

8 教科に関する調査結果及び四層別による比較

宇治市ではより児童生徒の学力実態を把握しやすい府教委方式に準じた「4層区分」に分けて比較し、分析を進めています。

府教委方式では、全国学力・学習状況調査の「平均正答数」を規準として、「基準以上」「基準未満」に2分し、同様にそれを2分して上位からA層、B層、C層、D層に分け、それぞれの割合を算出しています。

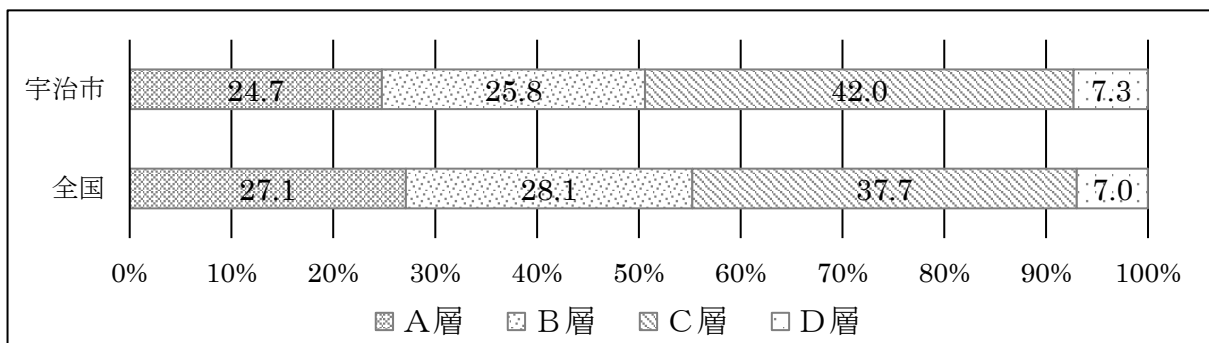
(1) 調査結果（小学校6年）

〔表3〕教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（公立小学校）

科目	区分	平均正答率 (%)	平均正答数/全問数 (問)
国語	宇治市	65.4	9.2/14
	全国	67.2	9.4/14
算数	宇治市	62.5	10.0/16
	全国	62.5	10.0/16

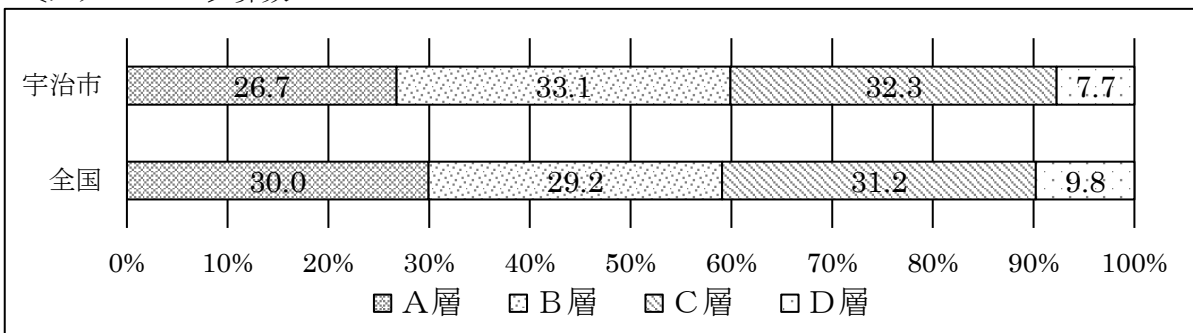
(2) 四層別による比較（小学校6年）

〔グラフ1-1〕国語



※ 本年度の小学校国語の出題数は14問であり、全国の平均正答数が9.4問のため、A層は12～14問、B層は10～11問、C層は5～9問、D層は0～4問となります。

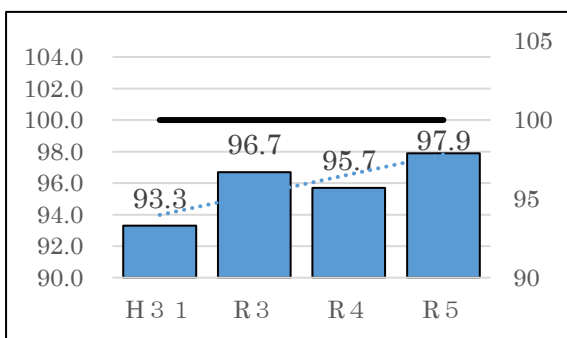
〔グラフ1-2〕算数



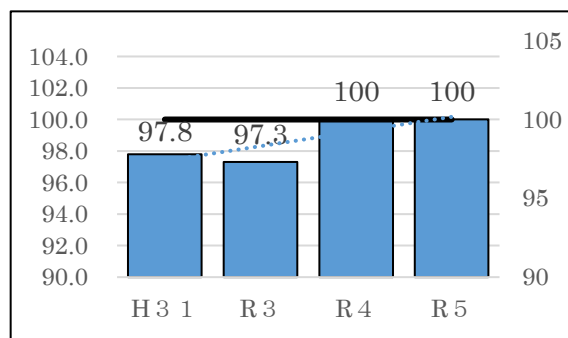
※ 本年度の小学校算数の出題数は16問であり、全国の平均正答数が10.0問のため、A層は13～16問、B層は10～12問、C層は5～9問、D層は0～4問となります。

(3) 全国の平均正答率を100とした時の宇治市の割合の推移（小学校6年）

〔グラフ2-1〕 小学校6年 国語の推移



〔グラフ2-2〕 小学校6年 算数の推移



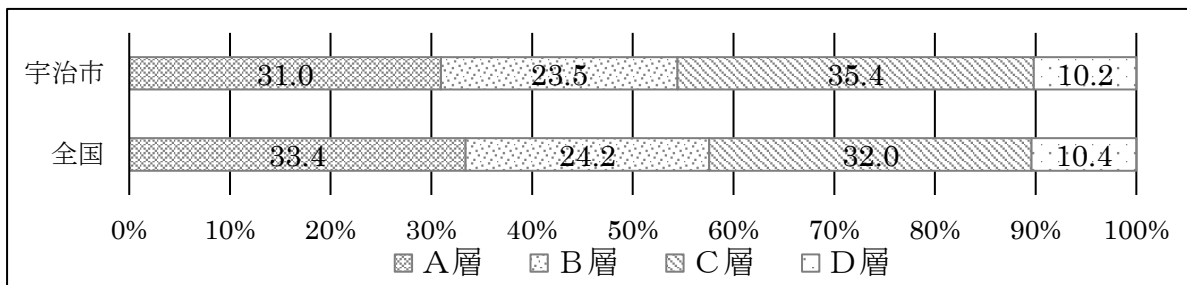
(4) 調査結果（中学校3年）

〔表4〕 教科に関する調査の平均正答率・平均正答数（公立中学校）

科目	区分	平均正答率 (%)	平均正答数/全問数 (問)
国語	宇治市	68.5	10.3/15
	全国	69.8	10.5/15
数学	宇治市	49.0	7.3/15
	全国	51.0	7.6/15
英語	宇治市	45.0	7.6/17
	全国	45.6	7.7/17

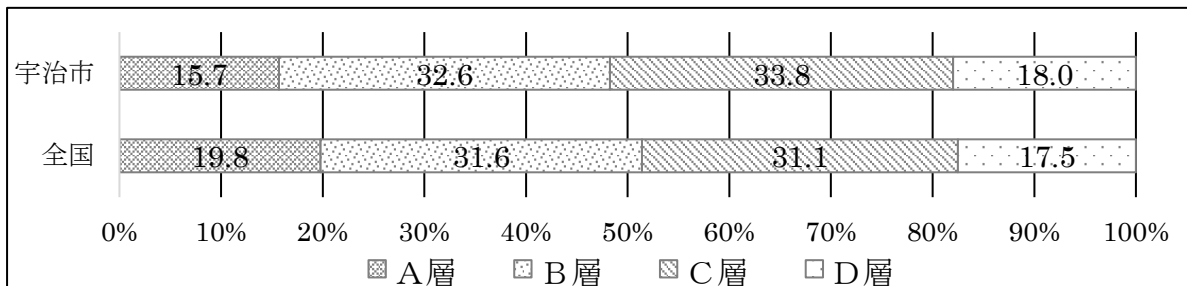
(5) 四層別による比較（中学校3年）

〔グラフ3-1〕 国語



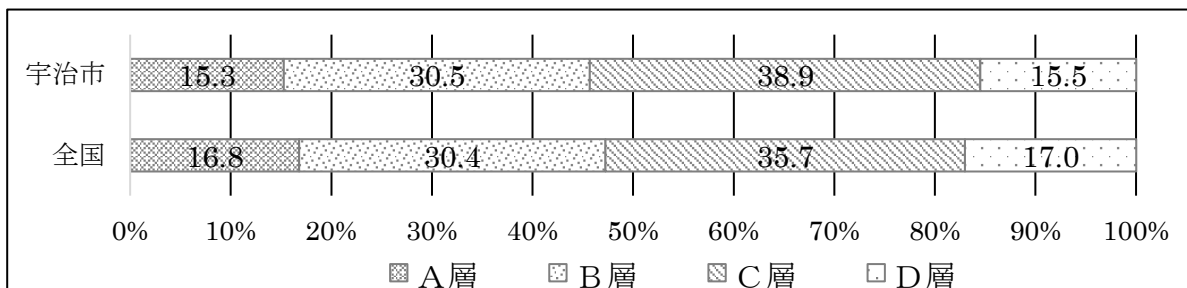
※ 本年度の中学校国語の出題数は15問であり、全国の平均正答数が10.5問のため、A層は13～15問、B層は11～12問、C層は6～10問、D層は0～5問となります。

〔グラフ3-2〕 数学



※ 本年度の中学校数学の出題数は15問であり、全国の平均正答数が7.6問のため、A層は12～15問、B層は8～11問、C層は4～7問、D層は0～3問となります。

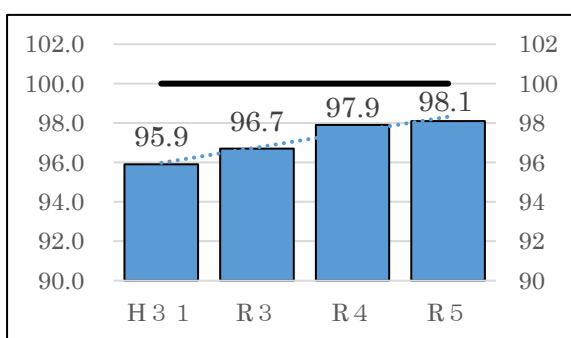
〔グラフ3-3〕 英語



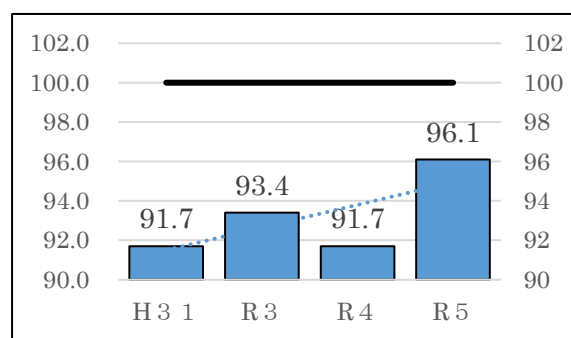
※ 本年度の中学校英語の出題数は17問であり、全国の平均正答数が7.7問のため、A層は13～17問、B層は8～12問、C層は4～7問、D層は0～3問となります。

(6) 全国の平均正答率を100とした時の宇治市の割合の推移 (中学校3年)

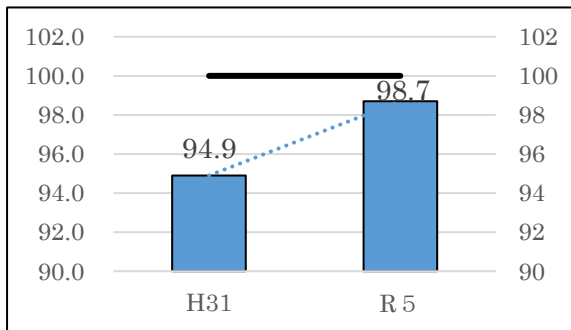
〔グラフ4-1〕 中学校3年 国語の推移



〔グラフ4-2〕 中学校3年 数学の推移



〔グラフ4-3〕 中学校3年 英語の推移



(7) 結果概要

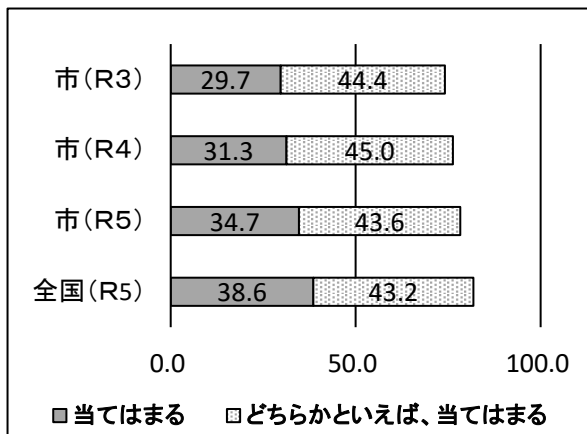
- ・ 小学校6年生、中学校3年生の国語では、ともに令和4年度から改善し全国平均との差が縮まっており、平成31年度からの経年比較で見ると着実に全国に近づいている。
- ・ 小学校6年生の算数では、平成31年度からの経年比較で見ると改善し、令和4年度から全国平均に達した。
- ・ 中学校3年生の数学では、令和4年度から大きく改善したが、まだ全国平均との差があり課題である。
- ・ 中学校3年生の英語では、前回の平成31年度から大きく改善している。

9 質問紙の調査結果

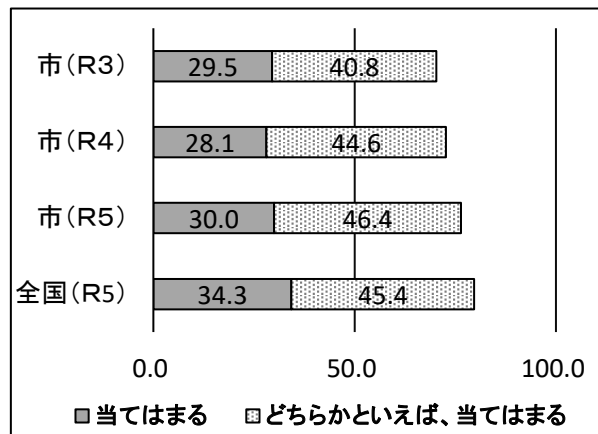
(1) 言語活動、宇治学にかかわる事項

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

<小学校> [グラフ 5-1]

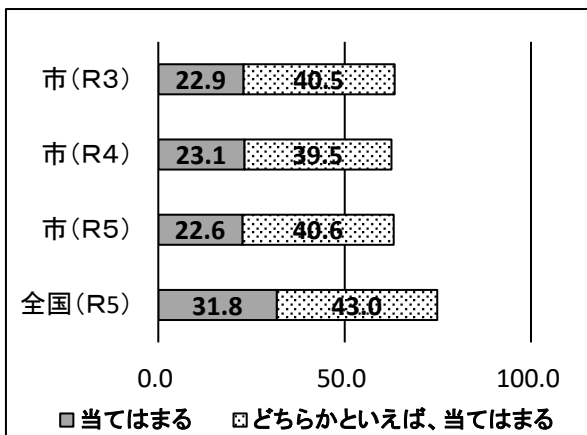


<中学校> [グラフ 5-2]

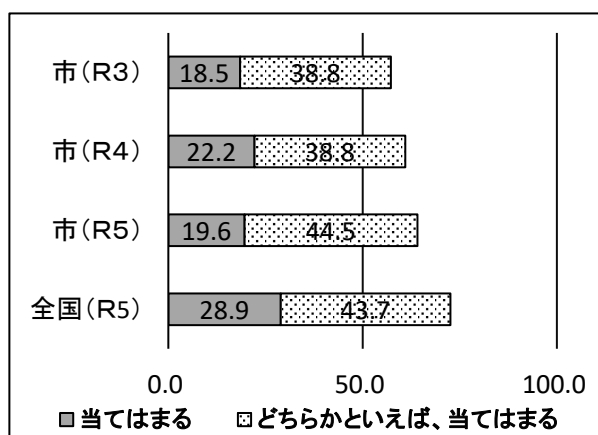


- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

<小学校> [グラフ 5-3]



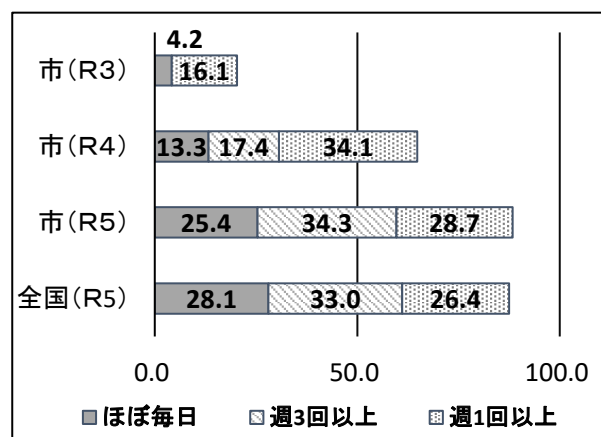
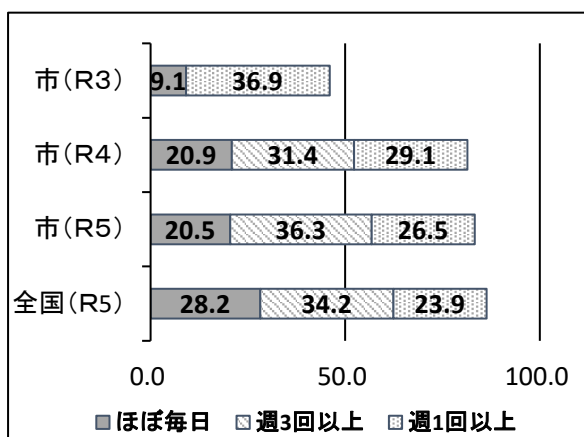
<中学校> [グラフ 5-4]



・「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする」「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」については、肯定的に回答した割合は、小学6年生・中学3年生ともに年々高まってきている。しかし、全国の割合を下回っており、引き続き学習の流れや場面設定など、授業改善を進める必要がある。

(2) 情報教育にかかわる事項

○ 5年生(中1, 2)までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。
<小学校> [グラフ6-1] <中学校> [グラフ6-2]

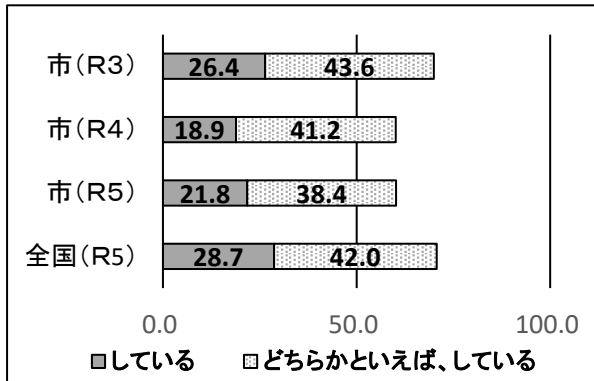


- ・児童生徒のICTの活用については、週1回以上の活用が、中学3年生で令和4年度より増加して飛躍的に伸び、全国を上回った。小学6年生でも、昨年度からの増加が見られるが、全国を下回っている。
- ・児童生徒のICTの活用については、使用状況は全国並みになってきているが、「ほぼ毎日使用」を見ると、全国を下回っており、まだまだ改善が必要である。

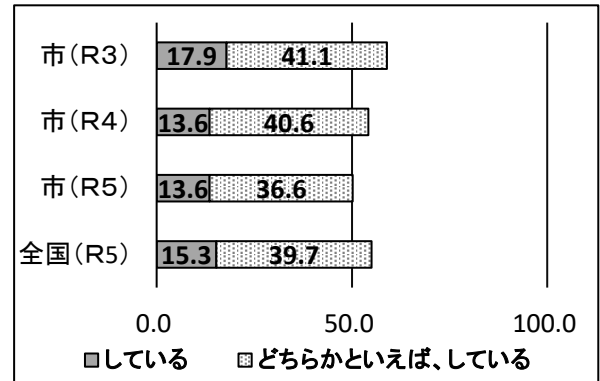
(3) 学習習慣にかかわる事項

○ 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

<小学校> [グラフ7-1]

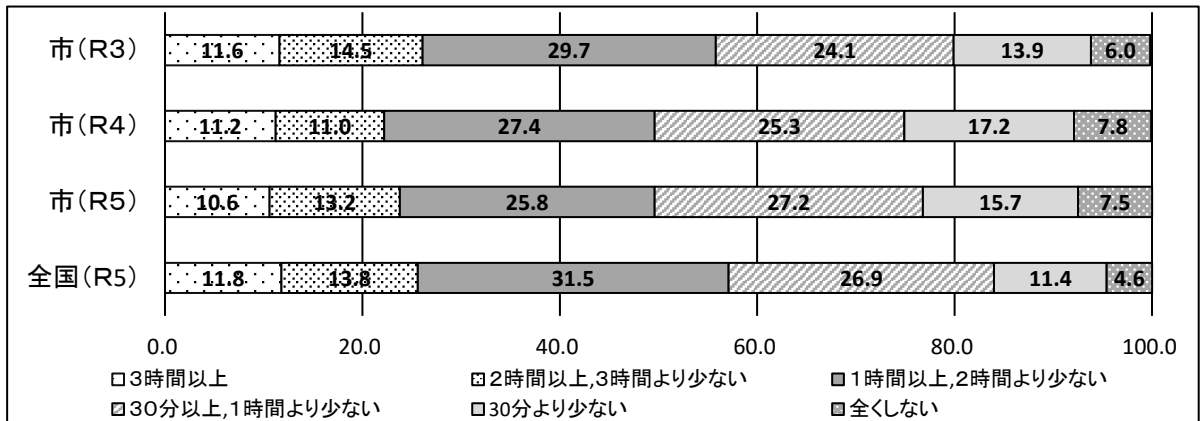


<中学校> [グラフ7-2]

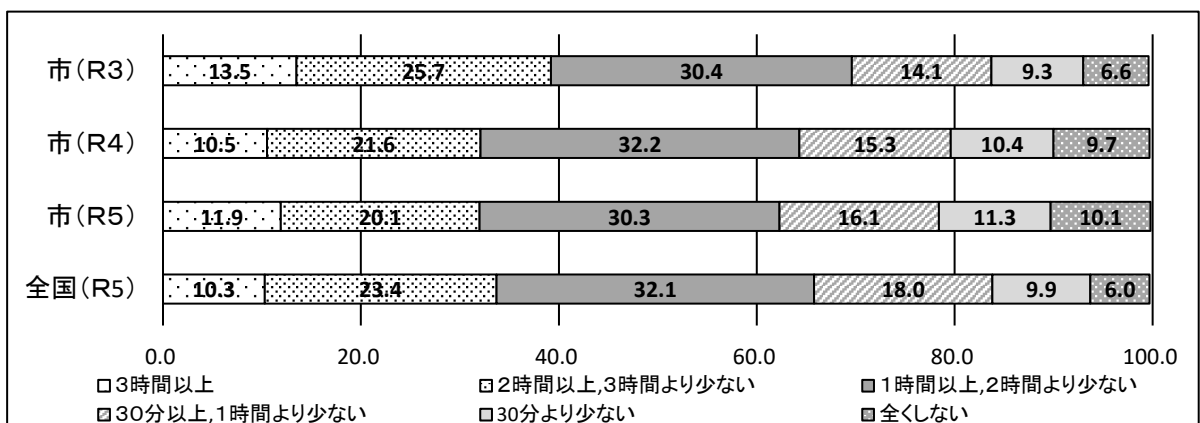


○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

<小学校> [グラフ7-3]



<中学校> [グラフ7-4]



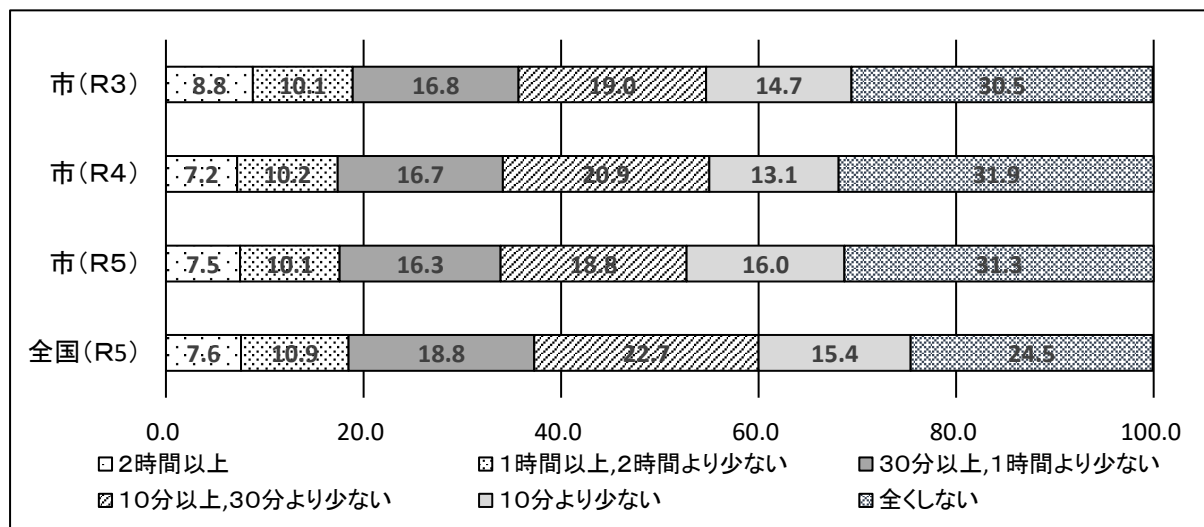
・家庭での学習習慣の「家で、自分で計画的に学習している」について、肯定的に回答した割合は、小学6年生、中学3年生ともに全国を下回っている。

・学習時間については、「30分未満」と回答した割合は、小学6年生、中学3年生ともに全国より高い割合となっており、各校で「家庭学習の手引き」等を活用し、改善のための手立てが必要である。

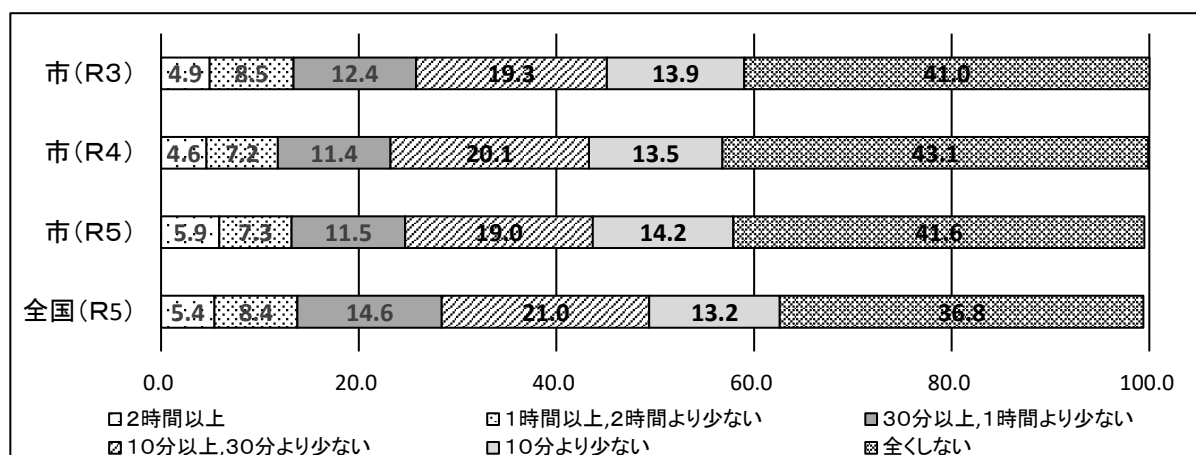
(4) 読書活動にかかわる事項

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。
（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

<小学校> [グラフ8-1]



<中学校> [グラフ8-2]



- ・読書活動について、「全く読まない」と回答した割合は、小学6年生で31.3%、中学3年生では41.6%となっており、全国より高い割合となっている。
- ・各校の司書教諭や中学校ブロックに配置した学校司書を中心に、読書週間の取組や選書会等、児童生徒が本に触れ、本に親しむ機会や取組の充実が必要である。